

社会貢献の取り組み

事業を通じて
次代の人材育成や
防災の新たな取り組みを創造し、
社会に貢献します

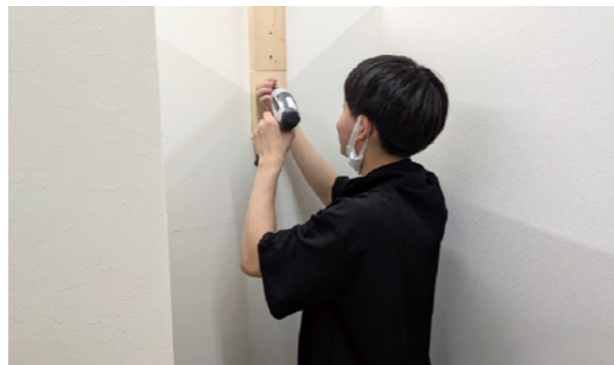
DCM株式会社
執行役員
経営戦略統括室
広報・CX推進室長
株式会社マイポフェローズ
代表取締役社長
松橋 弥生



職人育成事業

近年、家屋や住宅設備を補修・リフォームしながら長く大切にしたいという需要が高まっていますが、住まいに関する職人は高齢化が進み、後継者不足が深刻な問題になっています。そこでDCM株式会社（以下、DCM）は学校法人札幌静修学園（北海道札幌市、理事長：西辻一真）と産学包括協定、業務委託契約を締結し、2025年4月より札幌静修高等学校通信制課程のオプションコースとして「DCMホームクラフトコース」を開講しました。通信制で高校の基礎教育を受けながら、DCMが提供するDIYに関する座学と実技研修を通じて、受講生に就業を具体的にイメージしてもらうとともに、職人に必要な一部資格の取得も目指します。これにより、受講生が職業を選択する際に、自信を持って住まいに関する職業を選べるよう支援していきます。本講座は卒業後の進路と直結した学びになっているため、高校卒業要件取得のモチベーションにもつながっ

ています。講師はDCMの店舗で長く経験を積んだベテラン社員が担っており、培った知識や技術を生徒に分かりやすく伝えています。



受講生による実技研修の様子

社会体験支援

DCMは小学校高学年から中学生を対象とした社会体験カリキュラム「こども社会体験科 しゅくみ〜な®」（以下「しゅくみ〜な」）に2024年度から参加しています。

初年度は、東京都渋谷区の加計塚小学校、笹塚小学校、静岡県富士市の大淵中学校、吉永第二小学校での活動に参加しました。

「しゅくみ〜な」では子どもたちが仮想のまち「しゅくみ〜なタウン」の市民としての体験を通じて、社会・経済・仕事の仕組みを学びます。このカリキュラムでは事前に公的機関や会社の役割、お金の流れなどを学んだうえで、「しゅくみ〜なタウン」でそれぞれの職業に割り当てられた仕事を進めていきます。ホームセンターのDCMを担当した子どもは、店長・マーチャンダイザー・販売員・設計（リフォーム担当）の役割があり、商品の仕入れや販売、リフォームの受注などを行います。発注・仕入れ・陳列・販売など小売業の基本的な業務をしながら、他社から工事の発注を受け、それを施工するなど、子どもたち

は「しゅくみ〜なタウン」の他の企業などとも関わりながら、実際の仕事に近いやり取りを体験しました。とりわけ、リフォーム工事の依頼では、壁に色を塗る仕事を請け負いました。発注元の子どものいっしょにデザインを考え、設計図通りに仕上げることに努めました。



参加した子どもたち自身で商品を陳列し、子どもたちに販売

防災啓発活動

日本では地震や豪雨といった自然災害が多発しており、防災の重要性はますます高くなっています。DCMでは「防災はホームセンターの社会的使命」という認識のもと、ご家庭の状況に合わせて災害の備えを自ら行う「防災DIY」をスローガンに、最新の知識やノウハウを提供する様々な取り組みを行っています。

具体的には、市町村が行う防災イベントへの参加をはじめ、小・中学校で子どもたちに防災の基礎的な知識を伝える「防災出前授業」、家庭の事情に合わせた災害への備えを知り、実際に防災用品を体験していただく「店舗防災啓発活動」、自力で災害の備えが困難な世帯を支援する「新たな備えサポート隊」などの活動を行っています。

中でも「新たな備えサポート隊」は地域の自治体や企業・団体、大学がそれぞれの強みを活かして協力し、高齢者等の世帯を支援する取り組みです。この取り組みは2022年6月にDCMが発起人となり、愛媛県松山市で立ち上げ、活動してきました。ボランティアが要支援世帯を訪問し、防災の最新情報を案内したり、家具転倒防止器具の取り付けを行っています。支援は毎年100世帯で実施しており、2025年度で4年目の活動となります。

また、2025年7月には、この活動を北海道札幌市にも広げ、「新たな備えサポート隊in札幌」をスタートさせました。



ボランティアが要支援世帯を訪問し、家具転倒防止器具を設置（新たな備えサポート隊）

地域とのサステナブルな活動

DCMの体験型ホームセンターである「DCM DIY place」は、店舗がある東京都渋谷区の小学校で「DIY×サステナビリティ」の啓発を行う活動に取り組んでいます。壊れた物や古くなった物を捨てるのではなく、DIYで「直す・再利用する」ことを学ぶ機会を提供しています。

渋谷区教育委員会が2024年よりスタートさせた「シブヤ未来科」の一環として、渋谷区立長谷戸小学校の6年生が取り組んでいる「恵比寿の街を持続可能な街にしていこう」ことを目指した探求授業に参画しました。

この授業では、小学校生活の集大成として、自分たちの学校の備品をDIYで蘇らせる卒業制作を指導しました。子どもたちは学校生活の中で危険を感じたところを自分たちで見つけ、DIYで補修し、DCMの社員から電動工具の使い方や塗料の塗り方について学びながら、ひとつひとつ手作業でキレイに生まれ変わらせました。贈呈式では蘇った学校備品を見た下級生から「すごい！」と声があがりました。補修された愛着のこもった学校備品は上級生から下級生に引き継がれ、またその下級生が補修することで、物を大切に使い続ける心、DIYへの関心を育んでもらえたらと願っています。



子どもたちがDIYで補修した体育館の階段